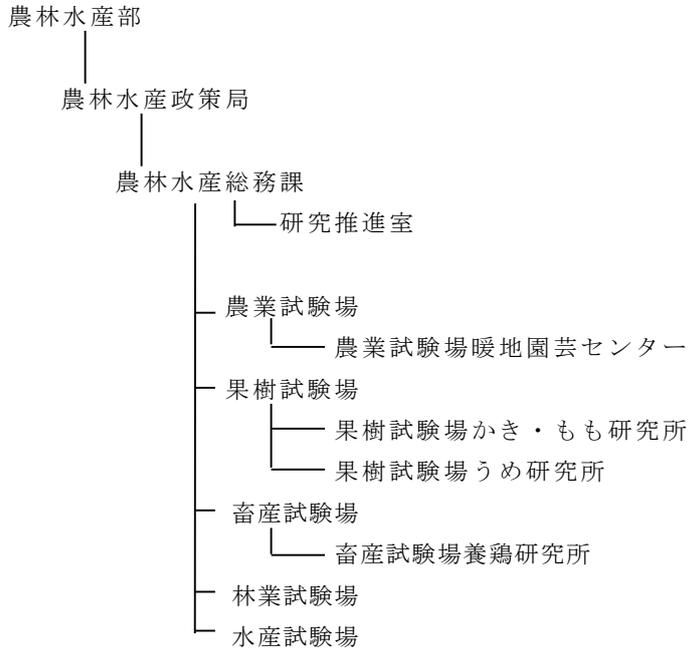


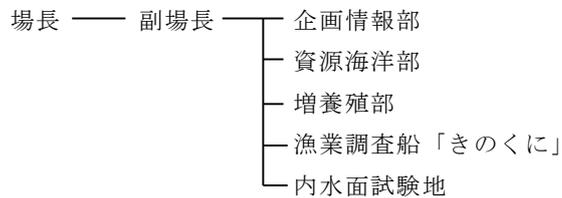
水産試験場概要

I 機構と組織

1. 機構



2. 内部組織



3. 職員の構成

区 分	行政職	研究職	現業職	計
場長		1		1
副場長		1		1
企画情報部		2	1	3
資源海洋部		6		6
増養殖部	1	5		6
漁業調査船	5			5
内水面試験地		4		4
	6	19	1	26

4. 職員と事務分担

部名	職名	氏名	事務分担
	場 長	岩橋 恵洋	場の総合企画及び総括に関すること
	副場長	森 康雅	場長の補佐, 人事, 服務, 庁舎の管理, 予算の総括に関すること
企画情報部	部 長	樫山 晃晴	部の総括・企画調整, 流通対策, 庶務, 成果の公表・普及に関すること
	主任研究員	木下 浩樹	藻場造成(ホンダワラ類)に関すること
	用務員	田中 千秋	庁舎内の清掃に関すること
資源海洋部	部 長	武田 保幸	部の総括・企画調整, 漁海況速報に関すること
	主査研究員	安江 尚孝	資源管理・回復推進, 船びき網漁業, 卵稚仔調査に関すること
	主査研究員	山根 弘士	高度回遊性魚類(カツオ・マグロ類), カツオマップに関すること
	副主査研究員	陶山 公彦	海洋観測, 人工衛星情報に関すること
	副主査研究員	武田 崇史	まき網漁業, 漁業資源・漁場調査と情報提供(クマエビ)に関すること
	副主査研究員	小川 満也	漁業資源・漁場調査と情報提供(イサキ)に関すること
増養殖部	部 長	葦澤 崇博	部の総括・企画調整, 飼育施設等の保守管理に関すること
	主任研究員	諏訪 剛	漁場環境(生物モニタリング), 介類増養殖, 魚礁調査(投石)に関すること
	主査研究員	堅田 昌英	水産衛生対策, 漁場環境(赤潮・貝毒)に関すること
	主査研究員	加藤 文仁	魚類種苗生産・養殖, 栽培漁業に関すること
	主 査	佐々木明生	調査研究の補助, 船舶「なぎ丸」・海上筏の管理に関すること
	副主査研究員	内田 廉	藻場造成(コンブ目), スマの種苗生産・養殖に関すること
漁業調査船 (きのくに)	船 長	小西 寛弥	船舶の管理・運航, 海洋観測調査, 飼育施設等の保守管理に関すること
	機関長	岸 幸一	〃
	主査機関士	平見 謹一	〃
	主査機関士	堀 浩一	〃
	副主査航海士	住谷 勝志	〃
内水面試験地	主査研究員	河合 俊輔	水産衛生対策, アユ冷水病対策に関すること
	副主査研究員	北村 章博	ウナギ資源に関すること
	副主査研究員	中西 一	内水面漁業・養殖技術指導に関すること
	研究員	賀集 健太	アユ資源に関すること

II 業務

1. 試験研究項目一覧

単位(千円)

事業名又は課題名	財源内訳				
	予算額	国庫	使用料・手数料	県債	一般財源
水産試験場費	862,178	32,083	1,976	5,900	822,219
水産試験場運営	24,459			5,900	18,559
内水面試験地運営	4,319		1,976		2,343
調査船運航	2,331				2,331
代船建造	785,233				785,233
シロアマダイの種苗生産技術の開発	1,508				1,508
漁業資源・漁場調査と情報提供	22,204	22,204			
マルアジの脂質含量と鮮度の研究	2,300				2,300
餌料仔魚を給餌しないスマ種苗生産技術の開発	1,985				1,985
水産衛生対策	1,694	847			847
天然ヒジキ増産に向けたヒジキ移植技術の開発 ～人工種苗を用いた早期移植の試み～	1,104				1,104
海域の栄養塩環境が二枚貝生産に及ぼす影響調査	1,528				1,528
アユ資源量に関する基礎調査	446				446
抗菌剤を使用しないアユ冷水病防除技術の開発 ～早期実用化への試み～	1,223				1,223
シラスウナギ来遊量調査	500	500			
環境収容力推定手法開発	1,266	1,266			
水産重要種の移動・回遊に関する研究	402				402
高度回遊性魚類調査	7,266	7,266			
低塩分海水を用いたモクズガニ種苗生産技術の開発	1,920				1,920
病害微生物モニタリングのための基礎研究	490				490
水産業振興費	2,375				2,375
資源管理・回復推進(資源管理課)	1,277				1,277
漁場環境保全等モニタリング(資源管理課)	71				71
栽培漁業推進(水産振興課)	1,027				1,027
漁業調整費	54				54
漁業・遊漁調整(資源管理課)	54				54
漁業構造改善費	873				873
漁場効果調査(水産振興課)	873				873
	865,480	32,083	1,976	5,900	825,521

Ⅲ 業績

1. 外部に発表した事項

- (1) 一般雑誌 なし
- (2) 書籍 なし
- (3) 学会等の発表

題 名	発 表 者	発 表 誌
・黒潮大蛇行期における和歌山県沿岸のカツオ漁況と漁場	山根 弘士	水産海洋学会 第 2 回海と漁業と生態系に関する研究集会
・紀伊水道で漁獲された浮魚類における生体電気インピーダンスと脂質含量との関係	武田 崇史 岡部 修一 安江 尚孝	水産技術

(4) 委託事業報告書等刊行物

- 1) 漁海況速報（週刊）
- 2) 人工衛星画像海況速報（2020-No.33～132、2021-No.1～31）

(5) 農林水産省研究会等資料

題 名	発 表 者	発 表 誌
・2020年におけるカツオひき縄春漁の経過	山根 弘士	令和 2 年度国際漁業資源評価調査・情報提供委託事業第 1 回カツオ SU 推進検討会資料
・2020年のカツオ漁況について	山根 弘士	令和 2 年度国際水産資源調査・評価事業第 3 回カツオ SU 推進検討会資料
・黒潮大蛇行期における和歌山県沿岸ひき縄によるビンナガ漁海況	山根 弘士	令和 2 年度太平洋中・南ブロック資源海洋調査研究会
・紀伊水道周辺海域におけるマルアジの資源量推定	武田 崇史 武田 保幸	令和 2 年度太平洋中・南ブロック資源海洋調査研究会
・令和 2 年度中央ブロック資源評価および第 1 回太平洋イワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報について	安江 尚孝 武田 崇史 陶山 公彦	平成 2 年度中央ブロック資源評価会議および第 1 回太平洋イワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報会議資料
・平成 2 年度瀬戸内海ブロックにおけるサワラ、カタクチイワシ・マダイ等の資源評価について	安江 尚孝 山根 弘士 武田 崇史	平成 2 年度瀬戸内海ブロック資源評価会議資料
・令和 2 年度中央ブロック第 2 回太平洋イワシ、アジ、サバ等の長期漁海況予報および資源評価について	安江 尚孝 武田 崇史 陶山 公彦	平成 2 年度中央ブロック第 2 回太平洋イワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報会議、資源評価調査担当者会議資料
・令和 2 年度ブリ類の難治癒疾病連絡協議会	堅田 昌英	令和 2 年度ブリ類の難治癒疾病連絡協議会資料
・令和 2 年度魚病症例研究会	堅田 昌英	令和 2 年度魚病症例研究会資料
・紀伊水道の栄養塩環境が二枚貝生産に及ぼす影響解明について	諏訪 剛	令和 2 年度漁場環境改善推進事業「栄養塩の水産資源に及ぼす影響の調査」計画検討会議資料
・紀伊水道の栄養塩環境が二枚貝生産に及ぼす影響解明	諏訪 剛	令和 2 年度漁場環境改善推進事業

について		「栄養塩の水産資源に及ぼす影響の調査」結果検討会議資料
・DNA抽出方法の比較検討について	河合 俊輔	令和2年度アユの疾病研究部会資料
・令和2年度養殖衛生管理技術者養成本科基礎コース研修	北村 章博 賀集 健太	同研修資料
・令和2年度養殖衛生管理技術者養成本科専門コース研修	河合 俊輔	同研修資料
・和歌山県におけるニホンウナギの生息状況及び生息環境の把握	北村 章博	令和2年環境収容力推定手法開発事業ウナギ課題計画検討会資料
・和歌山県におけるニホンウナギの生息状況及び生息環境の把握	北村 章博	令和2年環境収容力推定手法開発事業ウナギ課題年度末報告会資料

(6)新聞掲載

記事見出し（内容）	掲載年月日	掲載誌名
・黒潮大蛇行が一因？ カツオ水揚げ量減	2020.4.18	産経新聞
・カツオが不漁 串本港 3, 4月で3.6トン	2020.5.9	紀伊民報
・カツオの水揚げ激減 主要3港 昨年の好調一転	2020.5.20	紀伊民報
・浮き魚礁で水揚げ増 すさみで1日15トンも	2020.6.26	紀伊民報
・紀伊ワード カツオ戻ってこい	2020.11.1	読売新聞
・カツオの水揚げ好調 串本港 秋漁に続き年明けも	2021.1.21	紀伊民報
・タチウオ 有田の特産へ一本立ち	2021.1.26	産経新聞
・季節外れのカツオ豊漁 串本漁港 1日水揚げ2~3トン	2021.2.12	読売新聞
・メタンハイドレート 賦存状況の調査実施	2021.2.25	わかやま新報

(7)水産試験場成果発表会

実施日

令和3年2月3日

場 所

水産試験場 2階 学習ホール

内 容（発表題目, 発表者）

・天然ヒジキ増産に向けたヒジキ移植技術の開発	企画情報部	木下 浩樹
・シロアマダイの種苗生産技術の開発	増養殖部	加藤 文仁
・抗菌剤を使用しないアユ冷水病防除技術の開発	内水面試験地	河合 俊輔

2. 研修生・見学者の受け入れ

(1)研修生の受け入れ

1)インターンシップ

- ・大学生インターンシップ（3年生2名） 8月31日～9月4日, 9月7日～11日